

事業コード	0080101	政策コード	03	政策名	新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略						
事業名	獣医療緊急検査体制整備事業	施策コード	08	施策名	その他施策						
		指標コード	01	施策目標(指標)名	その他施策関連事業						
部局名	農林水産部	課室名	畜産振興課	班名	家畜衛生班	(tel)	1808	担当課長名	畠山英男	担当者名	工藤一磨

**評価対象事業の内容**

<p>1-1. 事業実施の背景(施策目標の達成のためになぜこの事業が必要であったのか) 国内において、豚熱等の家畜重要疾病が続発していることから、県内における迅速かつ正確な検査体制の構築が喫緊の課題となっている。また、万一家畜重要疾病発生時の防疫措置において、新型コロナウイルス感染防止に配慮した作業の実施が不可欠である。</p>	<p>5. 前回評価における指摘事項等</p>	<p>指摘事項</p>
<p>1-2. 外部環境の変化及び事業推進上又は完了後に明らかになった問題点 豚熱ウイルスに感染した野生イノシシ生息域が拡大しているため、豚熱ウイルスの交差汚染が生じないような新たな検査体制の整備が求められている。また、重要な家畜伝染病を診断する機関として、これまで以上に、新型コロナウイルスの感染防止に配慮した作業が求められている。</p>	<p>指摘事項への対応</p>	
<p>2. 住民満足度の状況(事業終了後に把握したもの) 満足度を把握した対象 受益者 一般県民 ( 時期 : R03年 03月 ) 満足度の把握方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の手法 ( 具体的に 畜産関係団体等からの聞き取り ) 満足度の状況 検査機器の整備により多種多検体の家畜伝染病の検査が可能となり生産者等の満足度が向上した。また、家畜保健衛生所は県内唯一の家畜伝染病の検査機関であるため、今後も新型コロナウイルス感染防止対策の継続が必要との意見あり。</p>	<p>6. 事業の内容 事業概要及び推進状況</p> <p>豚熱(CSF)等、家畜重要疾病の防疫対策を強化するため、家畜伝染病診断の効率化と精度向上に必要な検査機器等を整備する。</p>	

<p>3. 事業目的( どういう状態にしたかったのか ) 家畜重要疾病の迅速かつ正確な診断に必要な検査機器を整備するとともに、防疫対策に必要な資材を確実に備蓄し、本県の家畜衛生対策強化と畜産物の生産性向上を図る。</p>
<p>4. 目的達成のための方法</p> <p>事業の実施主体 県</p> <p>事業の対象者・団体 県内畜産農家</p> <p>達成のための手段 ・修理不可で不具合を来している検査機器および耐用年数を経過している検査機器の更新。 ・防疫対策に必要な防疫資材の備蓄。</p>

事業費等		単位(千円)	
内 訳		当初計画事業費	最終事業費
検査機器等整備事業		28,449	28,411
		0	0
		0	0
		0	0
事業費計		28,449	28,411
財源内訳	国庫補助金	28,449	28,411
	県 債	0	0
	そ の 他	0	0
	一 般 財 源	0	0

当初計画及び最終の事業費比較

最終事業費 / 当初計画事業費 =( 1 )

7. 事業の効果及び課題の改善状況  
 家畜伝染病診断の効率化と精度向上に必要な検査機器等が整備されるとともに、検査機関における新型コロナウイルス感染症によるクラスターの発生は認められなかった。

8. 事業の効果을把握するための手法及び効果の見込み

指標名	豚熱等の高精度検査機器の設置数								指標の種類
指標式	県内3家畜保健衛生所における遺伝子検査機器等の設置数								成果指標 業績指標
年度別の目標値(見込まれる効果) 低減目標指標 該当 非該当									
指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	01年度	02年度	全体	
目標a	0	0	0	0	0	0	11		
実績b	0	0	0	0	0	0	11		
b/a							100%	0%	
データ等の出典	畜産振興課調べ								
把握する時期	当該年度中 03月		翌年度 月		翌々年度 月				

指標名									指標の種類
指標式									成果指標 業績指標
年度別の目標値(見込まれる効果) 低減目標指標 該当 非該当									
指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	01年度	02年度	全体	
目標a	0	0	0	0	0	0	0		
実績b	0	0	0	0	0	0	0		
a/b								0%	
データ等の出典									
把握する時期	当該年度中 00月		翌年度 月		翌々年度 月				

指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法  
 指標を設定することが出来なかった理由  
 成果(見込まれる効果)

所管課の評価				評価結果	
有効性の観点	住民満足度の状況	a	b	c	A B C
	【b又はcの場合の分析】				
	事業の効果	適用の可否 可 不可			
効率的性の観点	a 達成率100%以上	b 達成率80%以上100%未満	c 達成率80%未満		A 1.0~ B 0.8~ 1.0 C ~0.8
	【b又はcの場合の理由】				
	事業の経済性の妥当性	適用の可否 可 不可			
総合評価	$\left[ \frac{\text{事業終了後の効果}}{\text{最終事業費}} \right] / \left[ \frac{\text{当初計画時の効果}}{\text{当初計画事業費}} \right] = 1$				A (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い)
	【評価への適用不可、又はb、cの場合の理由】				
	必要経費を精査し、事業費の縮減に努めた。				
<p>家畜保健衛生所は、家畜伝染病を診断する県内唯一の機関であり、畜産農家等から迅速かつ正確な診断と円滑な防疫措置を求められている。国内において豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病が続発している中、今回の高精度検査機器等の整備は、畜産農家等の要望に応えるものであり、本県畜産業の発展に寄与するものである。また、家畜保健衛生所内において、新型コロナウイルス感染症が発生すると、家畜伝染病の診断や防疫措置が滞ることになるため、今後も所内における新型コロナウイルス感染症の発生予防やまん延防止に努めていかなければならない。</p>					
評価結果の類似事業への反映状況等(対応方針)					
政策評価委員会意見					

## 終了事業事後評価判定点検表

(様式5-1)

## (1) 各評価項目の判定基準

観点	評価項目	判定基準	配点	1次	2次	評価結果	
ア有効性	一 住民満足度等の状況	a 住民満足度等を的確に把握しており、満足度も高い	2	2		A:有効性は高い (4点)  B:有効性はある (1~3点)  C:有効性は低い (0点)	
		b 住民満足度等を把握しているが、手法が的確でない又は満足度が高くない	1				
		c 住民満足度等を把握していない	0				
	二 事業目的の達成状況	a 目標値に対する達成率が全て100%以上	2	2			
		b a、c 以外の場合	1				
		c 目標値に対する達成率のいずれかが80%未満	0				
計			4	4		A	
イ効率性	一 事業の経済性の妥当性	a 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値(注)が全て1.0以上	2	1		A:効率性は高い (2点) B:効率性はある (1点) C:効率性は低い (0点)	
		b a、c 以外の場合	1				
		c 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値のいずれかが0.8未満	0				
	計			2	1		B

(注) 事業経済性の算定式

$$\left( \text{事業終了後の効果} / \text{最終事業費} \right) / \left( \text{当初計画時の効果} / \text{当初計画時事業費} \right)$$

上式で、効果とは事業の効果を把握するために設定した指標の実績値をいう。なお累積の実績値を設定している場合は、前年度からの差し引きによる「単年度増加分」を実績値として用います。

## (2) 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価	
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	B	
B (概ね妥当である)	総合評価結果が「A」又は「C」以外の場合		
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合		